

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

パウロは結びの挨拶として、最初に個人的な挨拶を送り、続けて「わたしと一緒にいる兄弟たち」からのフィリピの人たちに対する挨拶を送っています。この「一緒にいる兄弟たち」という表現は、ローマで拘禁中——厳密には皇帝の裁判を待つ間に自分で家を借りて住む軟禁中——のパウロと生活を共にしている非常に近い人たちを表します。22節はローマの教会の人たち、そして特にローマ皇帝の家の人たちからの挨拶を記しています。「聖なる者たち」は20節とは異なり、通常の数形が使われていますので、パウロ自身もまだ会ったことのない首都ローマにある多数の教会の多くの人たちを念頭においているのだと思います。「皇帝の家の人たち」は皇帝の家の使用人を表す言葉ですので、ローマ帝国内の諸都市に散在する皇帝の使用人である奴隷や解放奴隷を意味するとの意見もあるのですが、私見ではフィリピ書はローマで書かれたと思いますので、キリスト教に改宗したローマにいる帝国の役人を指すものだと思います。彼らはローマ帝国の役人として拘禁中のパウロの身を案じて、様々な手立てを取ってくれたと考えられますので、特に名をあげられているのだと思います。23節は手紙の最初の挨拶の祝福と同じように、最後の挨拶の祝福です。

フィリピ書の結びの挨拶において、パウロは自分だけではなく、様々な人々からの挨拶を記しています。挨拶はコミュニケーションとして人と人との関係を円滑にします。知らない人であっても、挨拶で名をあげられると、いつの間にか知り合いになった気持ちになり、信頼関係も生じますので、パウロは色々な人々を挨拶に登場させることで、時間と距離を超えた人と人との新たな信頼関係や強い絆を創り出しているのです。たかが挨拶、されど挨拶です。「挨拶を交わす」ことを通して、わたしたちも人と人をつなぐ新たな人間関係や強い絆を創り出していきたいと願います。

【2022年度前学期大学礼拝の感謝】

本日は2022年度前学期の最終礼拝です。1年生にとっては慣れない礼拝で、しかもリモート礼拝のために、戸惑うこともあったと思いますが、出席してくださりありがとうございます。また、2年生以上の学生と教職員のみなさんのお支えにも感謝申し上げます。ワンオペで少々大変でもありましたが、フィリピ書を精読することでわたし自身が一番益するところが多かったと感じています。後学期も引き続き大学礼拝をお覚えください。

【次回の大学礼拝】2022年9月27日(火)10時40分

次回の礼拝は2022年度後学期の第1回目の礼拝となります。礼拝の持ち方などの詳細については、後学期開始前に改めてお知らせします。

【大学礼拝週報】2022年度 第15号(前学期第15号)

2022年7月26日(火)午前10時40分

リモート礼拝(酪農学園大学 黒澤記念講堂)

《大学礼拝》

〈礼拝動画の配信〉

前奏

讃美歌 讃美歌21 98番(みどりの牧場に)

聖書 フィリピの信徒への手紙4章21-23節

奨励 「挨拶を交わす」 小林昭博先生(宗教主任)

祈り

讃美歌 讃美歌21 436番(十字架の血に)

報告

後奏

【本日の聖書】フィリピの信徒への手紙4章21-23節

21 キリスト・イエスに結ばれているすべての聖なる者たちに、よろしく伝えてください。わたしと一緒にいる兄弟たちも、あなたがたによろしくと言っています。22 すべての聖なる者たちから、特に皇帝の家の人たちからよろしくとのこと。23 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

【奨励】「挨拶を交わす」

本日は前学期の最終礼拝です。講解説教として続けてきたフィリピ書も今回でちょうど切り良く読み終えることとなります。今日の聖書は手紙の結びの挨拶です。21節はパウロとその側近たちからフィリピの人たちに送った挨拶が記されています。「すべての聖なる者」はフィリピの教会の人たち全員を表します。原文は単数になっており、22節でローマの教会の人たちを「聖なる者たち」と呼ぶときには複数形が使われていますので、ここではパウロが今も自分を支えてくれているフィリピの人たちを集合人格的に表し、フィリピの教会が一致してパウロを支えてくれていることを単数形で「すべての聖なる者」と呼んでいるのだと考えられます。20節で